

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )  
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成21年度の目標を新たにし日々取り組んでいる		理念を都度確認し、頭の中で復唱しながらケアにあたっている
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	皆が見えるところに掲示してある また、職員会議にて理念の共有と日々の取り組みに生かしていきたい		気分変動のある利用者に対しては怒声をあげそうな雰囲気や早期に察知して話題を変えるなど観察して対応している
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	天気のよい日には近所を利用者とともに散歩し立ち話など気軽に行うようにしている 家族には電話、手紙、訪問などで行なっている		常会(町内会)等に参加しふきのとうの理解が広がるよう努めている
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	洗濯物を干しながら等気軽にあいさつを交わしたり「お茶のみにってください」と声をかけている		気軽に立ち寄ってお茶飲みしてもらえるようなホーム作りをしていきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加 行事の案内が届くので交流するよう努めている(敬老会などに参加)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域貢献できることはないかと模索中である		人手が少なくお茶のみの場として地域の高齢者が気軽に立ち寄ってもらえる場にしたいと思っている 役立つことがないか話し合っていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年同様今年も職員全員で自己評価を実施した		職員会議等で取り組みを振り返る
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月、入居者の近況報告をし年々入居者のレベルが低下していることを理解してもらった 外部とのふれあいが少なくなりつつあるのでさらなる協力をお願いする		利用者の食べている食事を食べていただき感想を聞いた
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回の市のサービス会議に参加している		主任・管理者主体になっているため他の職員も市の担当者とかかわりが持てるような場を確保していきたい
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要になる可能性のある入居者についての実態が把握されていない		理解が十分でないため今後正しい理解をもち積極的に活用できるように勉強会等に参加していきたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で具体例をあげてかわりの中で「これは虐待にならないか？」と確認しあっている		日々介護や生活の世話をやっていると感じかなくうちに虐待しているのではないかと不安があるので職員同士で声を掛け合い気をつけていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>文章作成し、説明・同意を得ている その際に何か要望等があればなどと話し不安などを口にできるように配慮している</p>	<p>話しやすい接し方ができるように取り組んでいきたい</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情箱の設置はしてある 反映まではいたっていない</p>	<p>人間関係の不満があるときには、1対1の時間をつくったりドライブなど気分転換できるように心がけている</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>運営推進会議に家族の方の参加を呼びかけたり配り物をする際には報告をしている</p>	<p>写真等でも様子を伝えている 入居者に変化があったときには連絡を入れるようにしている</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会等を利用して苦情等申し受けたときには事業主に報告している 苦情箱を設置している</p>	<p>聞くだけでなく早急に対処できるように職員間で話し合う ケア会議を随時開催するなど検討したい</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回職員会議・ケア会議を開催し積極的に意見交換している</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>現在、事業主に要望をしている</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>認知が進行しダメージは少なく、利用者なりに順応していると思われる 思い出して聞かれたときにはダメージがないように受け答えするようにしている</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>必要に応じて見直されている</p>	<p>マニュアル整備に努めている 法人内委員会でとりあげ検討している</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会があり積極的に研修できるよう声かけし進めている	法人内外の研修をすすめている
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の開催と参加 他のグループホームの職員や小規模多機能型居宅介護の職員と交流できる機会が少ない	管理者のみならず一般職員も参加できる交流の機会を作り増やしていけたらと思う(職員の参加は、日・時間的制限等あり工夫が必要である)
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事会、法人内温泉施設の利用など取り組んでいる	年度末に職員アンケートを行い、様子を聞く・知る努力をしている 職員の休憩場所がふきのとうの共有スペースしか確保されていないため休憩等工夫していきたい
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勉強会、研修会、委員会に参加できるよう勤務を調整している 各自が向上心を持って働くよう努めている	長く研修日数がかかる場合の人員確保が難しいと思われる 法人に検討をお願いしたい
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に面接して話を聞く機会をつくって対応している(初対面のため難しいと思われる)	面接する機会をかたくない雰囲気の間として設定してお茶のみながら関係作りをしてスムーズに利用できるよう努めたい
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	会う機会が少ないまま利用につながるケースが過去にあったので注意している	何回か足を運んでいただき納得したうえで利用していただけるよう努めたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めていきたい		相談事に聞く耳を持って対応していきたい
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	何度か事前に気軽に「お茶のみ」に来ていただく様声かけしている 雰囲気を見に来てもらうよう努めている		場の雰囲気になじんでいただけるかどうか不安なため、よく家族に理解して足を運んでいただけるように話をしていきたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	寄り添い利用者を理解して共に生活できるように対応している 関係を築くよう努めている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	介護を担えないことを負担に感じないように家族の気持ちも大事にして支えていくよう取り組んでいる		家族が来所したら一緒にお茶のみをしながら話ができるようなゆとりをつくっていきたい
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族をつなぐ共通のものをさがしよい関係が築けるように支援していきたい		良い関係が続くよう支援していきたい つなぐものは何か把握できるよう努めていきたい
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人がいなくなったときの説明が難しい ドライブ等で家に行ける方には支援している		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	生活の場から利用者同士の関係をさぐり席に配慮している		利用者同士の気持ちを把握しトラブルにならないよう対応している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	一部の方は懐かしく思い立ち寄ってくれる方がいる(野菜等を持ってきてくださる) 実際はむずかしい		年賀ハガキを出している
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時センター方式を今後活用して把握できるように努めたい その人その人に合った生活パターンに沿うよう努めている		センター方式の研修に参加して技能を身につけたい
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話から把握するよう努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の生活状態を通して把握できるように日誌をよく読んだり 1人1人の記録を確認している その人その人に合ったペースで過ごしてもらっている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画を作成する際要望を伺ったり日常の生活の中から課題を探り出している		現場をやりながらなので計画作りに時間が取れない
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体状況、精神状態等日々変動あるため関係者から情報を得て協働で計画を作成するように努めていく		チームワークで1人の人を同じ介護ができるよう情報交換し家族とも話し合っ計画作成していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はよく読むようにしている 情報の共有をしている 気づきや工夫したことを記録に残すようにしている		気づきがあっても見逃して記録をする前に忘れてしまうことがある メモする習慣をつけたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療との連携、必要ときは八職に相談するなど多職種の協力を得ている 支援している		さまざまな年代の職員がおり互いにより刺激となっている
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議、年2回の防災訓練、実習生の受け入れなど協力している 音楽・踊りボランティアの方が来てくださる		駐在さんに現状を話し、立ち寄ってもらうよう声をかけている。 消防点検に消防の方の協力を得ている
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて職員間で話し合い調整できるように検討していきたい		市の連絡会議等活用して相談したり話し合う機会にしていきたい
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要時は地域包括センターに相談するようになっている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用以前のかかりつけ医には可能な限り家族と共に受診継続してもらっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神状態がひどい場合は主治医より紹介状を書いていただき専門医に受診していただくよう家族に説明している		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間体制で相談できる訪問看護と契約して相談している		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	安定した体調で退院してきて再度入院を繰り返さないように病院関係者と情報交換に努めていきたい		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居していただく前に終末期の意向等を伺い文章で残している		最期をどのように過ごしたいか、体調に変化があったときにはさりげなく聞くようにこころがけていきたい
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看とりを希望している(利用者)家族に対しては面会時に状態を報告してケアしている内容を伝えている		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えを希望する際にはダメージがないように配慮していきたい		死亡退所のみなので今後対応を統一していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉や態度で気分を損ねないよう職員間で声を掛け合って配慮している	申し送りなど近くに利用者がいたときには名前を伏せて申し送りをするように努めている 廊下のオムツ入れには、ローマ字で表示している 記録は棚に置き隠れるよう工夫している(それ以外の記録は押入れの中に入れてある)
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	お茶の時間に何を飲みたいか聞いて出すようにしている(緑茶、麦茶、コーヒー、紅茶など)	希望や思いを表出できるように言葉かけを工夫していきたい 誕生日などのときは本人に何を食べたいか事前に聞きだしその日を楽しく過ごしてもらえるよう支援している(ぼたもち、赤飯、ケーキが出ることが多い)
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気がよいと「外に出たい」と言われる利用者に対しては外出の機会が得られるようその日その日で予定を随時変更している	入浴したいか等声をかけてからの支援を心がけている 日々どのように過ごしたいか支援できるよう努めたい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみ等声かけしている 施設に来てくれる専門の理容師がいる 望む店に行ける方はほとんどいない	着なれた服を持ってきていただき可能な限り着ていただいている 着られなくなった時には家族に連絡・相談し新しい物を買うようにしている(可能な方には一緒に着たいものを選んでもらっている)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき(たけのこ、ふき、うどなど)と一緒に手伝ってもらいどんな調理がいいか話している	お絞たたみ、食器拭き、食器を流しに運ぶ等日課にしている方がいるので継続していきたい
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、タバコについては配慮できていない	麺類が好きな方がいるので麺類を提供することが多い

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁の原因が疾患である場合については都度交換して清潔に努めている 食前食後就寝前にトイレに行くよう声をかけている		衛生面に気をつけている 入浴しないときには陰部洗浄するよう心がけている
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は日勤帯が多い 入浴をすすめるがその日の気分に合わせて無理をせず希望に沿って対応している		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	使い慣れたもの(布団など)を使用 体温調節できない方には湯たんぽや掛け物等観察して配慮している		眠いときなどは無理をせず休んでもらい 夜中でも眠れないときには相手となりお茶を飲んだり話し相手になるよう努めている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントを活用し参考にしてイベントがある時は声かけて参加できるように配慮している		お経を読んだり、歌を聴いたり気晴らしできるよう支援している 花を育てることが好きな方とは外にプランターを置き育てた
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持している方はいない(自己管理できる方はいないとおもわれる)		地域の祭りには屋台に行き本人のかいたい物を買って来た
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の気分や何か思い出して(墓参り)外出希望される方に対しては一緒に外出できるように日程調節している		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	もえぎ旅行、運動会へ参加を呼びかけている 家族参加の機会はずくない		入居者・家族と一緒に外出して楽しめる機会を今後企画して実施できたらと思っている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅要求が強い場合には家族の了解のもと電話で話をして落ち着いていただけるよう配慮している		はがきを書くことができたときには宛名書きもしていただいた
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	環境整備に努め訪問された方々が気持ちよく過ごせるように努めている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々行なっている行為が身体拘束に該当しないか職員どうしで確認しあっている		勉強会等で理解を深めていきたい
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることはしていない 夜間のみ		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	天気がよいと外に出たがる利用者の所在を確認し、一緒に散歩するように配慮している 夜には適宜見回りを行い様子の把握に努めている		入浴、更衣等には2人対応でなければならない場合があり目が届きにくいともあるので事業主に相談し人員確保検討中
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ヒーター等の温度を設定してもつまみねじを壊してしまうことが多いため注意紙を貼って危険防止に努めている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	市の取り組みや事業所内、法人内での研修会に参加したり、火災については随時話し合う機会を得て防止に努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時には契約している診療所や訪問看護に連絡して対応してもらっている		訓練の機会を定期的に取り組んでいきたい 研修会等あれば参加していきたい
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近くの法人内通所施設と年2回の非難訓練を実施している 運営推進会議時に近所の方々に協力してもらえるようお願いしている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりが抱えているリスクについて訪問時や来所時にはなしをして説明している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	生活記録を活用し体調変化の早期発見に努め緊急時はまず訪問看護に連絡し対応に努めている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の協力を得て利用者一人ひとりの薬について勉強会をして理解を深めている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックをして便秘の把握に努めている 水分補給はどれくらいかと意識してとってもらっているようにしている		野菜中心の手作りで食物繊維を多く取り込んでいる
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声かけして最低1回は歯磨き義歯洗浄するように支援している		一人ひとりにあった洗浄道具を使用し工夫している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	寝たきりの重度利用者や介助が必要な方々には一日のトータル量をチェックできるようメモして確保できるように努めている		献立は管理栄養士により立てられている 本人の好き嫌いを把握して、取り除くようにしている(他のおかずで補うようにしている)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内の感染対策マニュアルを常時確認できるところにおいて実行できるように配慮している		朝、共同で使用する手すりやトイレはハイターで掃除することを実施できるようにしていきたい
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台ふきん、食器ふきはハイター消毒し洗濯している 調理用具、スポンジ類はこまめな洗浄と日光消毒等を行っている 賞味期限等確認し順次使うよう心がけている		調理担当者は便の検査を定期的実施している
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	高床式の作りのため外出困難な状況 重度者の出入りの対応検討中		玄関掃除をしてきれいな出入り口を心がけている 手書き風の看板が親しみがある
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を共有スペースのテーブルに飾ってもらっている		五月にはこいのぼりを塗り絵してもらい飾っている
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのみならず利用者同士が居室を訪問してゆっくり会話できるように配慮している		居室でお茶のみしてゆっくり会話できるように環境整備をこころがけたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを使用していただいている もの置き場にならないように環境整備に努めたい		紙オムツがすぐに取り出しやすいように箱にいれて部外者の目のつくところがあるので工夫して改善したい
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	消臭剤を置いて不快なおいを取り除くようにしたり、窓を開けて空気の入替えをこまめにしている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を維持できるよう移動能力確保に努めている		手すり等つけて安全に配慮している できる体操をとりいれ毎日取り組んでいる
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	介助されることを嫌がり、助言に対しても抵抗する利用者に対してはことばかけやスムーズに援助できるように工夫している		布団干しを拒否する利用者に対してかかわりの工夫をしていく必要がある
87	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花や、野菜のプランターを一緒に育てるよう、楽しんでいただけよう配慮している		椅子を廊下等に置き日向ぼっこ等に活用している

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・民家改造した建物を利用している ・職員全員が利用者一人ひとりが生活しやすいように自宅の家族を介護する気持ちで日々接している。利用者の中には職員を「おかあさん」と呼んで親しみ頼りにしている。その関係を大切にしている ・手作りご飯は既製品をほとんど使わず野菜中心でおいしい、どの世代にも健康的である。 ・タンク、食器棚は建物にもあっており落ち着き空間づくりの一つとなっている